



# 校長通信

令和4年度 8号

令和4年6月30日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

一昨日6月28日、気象庁は「近畿地方が梅雨明けしたとみられる」と発表しました。平年より21日早く、昨年より19日早い梅雨明けで、これまで最も早かった梅雨明け(1978年7月3日ごろ)の記録を更新したそうです。これから、本格的な夏となり、厳しい暑さが続くと思われまます。コロナ対策をしながら、熱中症対策も実施していきます。



## 《期末テスト無事終了！》

6月28日から3日間実施した期末テストが終了しました。期末テストは、中間テストの5教科に比べ、9教科と多くなり、学習しなければならない量が増え、たいへんだったと思います。その分、テストを終え、子供たちの喜びはひとしおでしょう。しかし、ここで気を抜くのではなく、テスト答案返却では、自分が正解できなかった問題をしっかり見直し、分析することを怠らないでほしいと思います。

私が、子供たちにいつも話す、残心の精神（一つの行為が終えた後も、気を抜かず、しっかりと振り返り次に生かすこと）を大切にし、自分のテストを見直して次に生かしてほしいと思います。各家庭でも、テストの得点だけを話題にするのではなく、なぜ間違えたのか等、話し合える機会をつくっていただけたら幸いです。

## 《夏の中体連の大会に向けて》 ～経験から学んだ残心の大切さ～

7月2日の水泳の大会を皮切りに、夏の中体連の大会が始まります。特に3年生にとっては、最後の大会となるので、これまでの練習の成果を出して、悔いのない試合をしてほしいと願っています。

さて、私自身の中学校時代を振り返ると、日進中学校剣道部3年生だった定昭少年は、最後の夏の大会、団体戦に中堅で出場、市の大会で準優勝し、県大会へコマを進めました。県大会も順調に勝ち進み、準決勝である強豪中学校と対戦しました。先鋒から互角の試合が続く、両チーム勝者数が同じで、大将戦となりました。両者、有効打突がないまま、残り時間後わずかというところで、自チームの大将の面が決まりました。これでチームが勝ち、近畿大会に行けるとみんな喜びました。勝った大将もジャンプして喜びました。

その瞬間、審判が挙げていた旗が下され、審判から有効打突取り消しという宣告がなされました。剣道では、残心のない技は、取り消されてしまうのです。がっかりした自チームの選手は、次に相手に面を打たれ、負けてしまい、その瞬間、日進中学校剣道部の近畿大会出場が途絶えてしまったのです。たいへん悔しい思いをしましたが、その時の経験から、残心の精神はとても大切だと思えるようになりました。そのような訳で、今、私は残心の大切さを子供たちに事あるごとに説いているのです。